

# 校長室だより(No.29)

令和3年11月16日  
丹波市立黒井小学校長  
谷口 千尋

## 見える学力と見えない学力(2)

前回に引き続いて、非認知スキルについてお話ししたいと考えています。前回4つの非認知スキルについてお話ししました。㊦ひとの考えをよく聞き、自分の考えを発表できる。…人間関係形成力 ㊧初めてのことや苦手な事にすすんで挑戦できる。…自己管理能力 ㊨自主学習を続ける。授業に最後まで集中して取り組める。…課題対応能力 ㊩当番活動や係活動、掃除などみんなのために仕事ができる。…社会性・公共心 です。

これは、今大切にされている「キャリア教育」の基礎的・汎用的能力とも通じています。また、「子どもに社会に出るまでに身につけさせたいと考えること」(第1回 幼児期から小学1年生の家庭教育調査報告書)においても、人との関係づくり(78.1%)…アと関連、タフな精神力(60.0%)…㊨と関連、将来進みたい領域に必要な知識(54.1%)・幅広い知識や教養(49.3%)…㊧と関連、探求心や何かに没頭する経験(33.6%)…㊨と関連など基本的な非認知能力が「基礎的・汎用的能力」と言われています。

では、人間関係形成力、自己管理能力、課題対応能力、社会性・公共心とは具体的にどのようなことかをお話しします。

まず、人間関係形成力は、「多様な他者の考えや立場を理解し、相手の意見を聴いて自分の考えを正確に伝えることができる」とともに、自分の置かれている状況を受け止め、役割を

果たしつつ他者と協力・協働して社会に参画し、今後の社会を積極的に形成することができる力。」とされています。具体的には、他者の個性を理解する力、他者に働きかける力、チームワーク、リーダーシップなどです。黒井小学校で取り組んでいる授業改善の中でもこの力を伸ばそうとしています。

自己管理能力は、「自分が「できること」「意義を感じること」「したいこと」について、社会との相互関係を保ちつつ、今後の自分自身の可能性を含めた肯定的な理解に基づき主体的に行動すると同時に、自らの思考や感情を律し、かつ、今後の成長のために進んで学ぼうとする力。」です。言い換えると、自分の可能性を大切に、やらなければならないことは、苦手なことでも逃げずに取り組める力のことです。具体的には、自己の役割の理解、前向きに考える力、自己の動機付け、忍耐力、ストレスマネジメントや主体的行動などです。

課題対応能力は、「仕事をする上での様々な課題を発見・分析し、適切な計画を立ててその課題を処理し、解決することができる力。」です。小学校の児童においては、計画を立ててこつこつ努力を重ねることや興味を持った課題について問題解決的に取り組むことだと考えます。

社会性・公共心は、その通りです。「働くこと」の意義を理解し、自らが果たすべき様々な立場や役割との関連を踏まえて「働くこと」を位置付け、多様な生き方に関する様々な情報を適切に取捨選択・活用しながら、自ら主体的に判断して自身の成長に生かしていく力。」です。学ぶことや働くことの意義や役割の理解だと考えます。

今回は、これらの育みたい力についての子どもたちの現状をお話しします。

※前回から3回シリーズで「見える学力と見えない学力」について掲載いたします。これは、学校だよりの裏面に掲載したものと同内容です。学力調査結果の公表に先立って説明しています。